
編集後記

1. 認知症、看取りをテーマとする研究発表が多くなってきました。

痴呆が認知症に読み替えられて10年、静かな時限爆弾のこの病態への取り組みは群盲象をなでる域から抜け出してない。一寸法師のような大きな鬼を懲らしめる治療が期待されて以来、認知症を取り巻く環境づくりへの期待が大きい。また、医療費抑制を視野に入れた「データヘルス計画」における診療記録の共有化が一助になることを期待したい。

佐渡総合病院堀朋子看護師の論文「リバプール・ケア・パスウェイ」は医療従事者用の「看取りのパス日本語版（2009年）」チェックリストで、患者状態適応型パスを含み、医療安全と質の向上を支援するソフトとして期待されている。2009年流行語「終活」以来の適切な時期での発表でした。

老健アルカディア上越本多光恵管理栄養士の論文「老健における看取りケア」は、米国では決して実施されない胃瘻が国内では20万人もいることに関して疑問を投げかけている。日本老年医学会の立場表明2012「高齢者の終末期の医療及びケア」は高度な延命治療に疑問を投げかけている。家族の意見の尊重だけでなく、判断能力を無くす以前の事前指示書やリビングウィルが準備される高齢化社会になっている。

2. JA 新潟県厚生連医誌の内容をインターネット上で読めるようにしました。本誌は、21年前の1984年に創刊されて以来30年経過し、2014年23巻を上梓出来ました。前西山編集長より英文抄録を添付する旨の指示を受け継ぎ、更に、厚生連の広報文書の性格を前面に出してまいりました。既刊全論文のコンピューターへの取り込み・目次作成・リンク設定を完了し、念願のインターネット上での全論文の公開が7年目となりました。インターネット上での抄録掲載または単文掲載はしばしば目にいたしますが、学会雑誌の全論文掲載の前例は無いと思います。今後、本誌掲載文献が引用されていくことを希望しております。この事業にご尽力いただいた同職場の長谷川秀浩君に深謝いたします。

以下に、(A) 厚生連医誌の検索方法と、(B) 既刊発表論文の目次を掲載しました：

A. 厚生連医誌の検索方法：

1. JA 新潟県厚生連本部のホームページを開く。

または、旧病理センターのホームページ (<http://www.nkp-center.jp/>) を開く。

2. トップページサブリンク先「新潟県厚生連医誌」を選択して、厚生連医誌既刊全内容の目次一覧を開いて検索する（掲載内容は、Excel形式で、筆頭著者名、題名、西暦、巻、号、頁が表示されています）。

3. 読みたい論文が決まったら、リンクボタン「論文を読む」または、直接 <http://www.janiigata.sakura.ne.jp/JMNK/jmnk.htm> を開いて、希望の論文を確認する。

B. 新潟県厚生連医誌論文全掲一覧表

(文責 五十嵐俊彦)